

これまでのとりくみ(P・D)

全国学力・学習状況調査の結果より(C)

これからのとりくみ(A)

教育目標を「笑顔で豊かにつながり、幸せに生きる人を育てる」と掲げ、「自己肯定感」「主体性」「言語能力」の3つを重点的に育成をめざす資質・能力とし、取り組みを進めている。特に、主体的に学ぼうとする姿勢に課題があるとの認識のもと、「学びの楽しさを伝える授業づくり～子どもが主体的に考えるための導入の工夫～」を研究主題に設定し、実践を重ねてきた。

○大阪の授業スタンダード…子どもの思考の流れにそって、学習過程を構成する。

○つながりタイム…「かかわる力」の育成をめざし、全学年で取り組む。

### 教科の結果より

#### 【国語】

- ・漢字の定着に課題がある。
- ・問題を最後まで読みとることに課題がある。(あきらめていることもある)
- ・自分の考えを、表現することに課題がある。

#### 【算数】

- ・グラフや表を読みとることに課題がある。
- ・文章の読解、問い合わせの意図の理解に課題がある。
- ・式を立てることはできるが、求め方を説明することに課題がある。

### 児童質問より

○学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方へ気付いたりすることができますか。(肯定91.3%)

→協働的な学びにより、自分の学びを深めることができている。

○学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができますか。(肯定82.6%)

→約2割の子どもに、学習の自己調整の不十分さが生じている。

これらの課題から、以下の3点について「全教職員」で取り組む。(定期的に進歩確認を行う)

1、日々の授業を「子ども主体の授業」にするために、5つの活動を授業の中に定着させる。

- ①「出合う」 子どもが主体的に考えるための導入の工夫をする(今年度の研究主題)
- ②「結び付ける」 課題を解決するために、すべての子どもに見通しをもたせる
- ③「向き合う」 1人で課題に向き合う時間を確保し、考えを多様な表現でまとめさせる
- ④「つなげる」 ペア・班・全体交流の活動を設定し、自分と仲間の考えをつなぎ、考えを深めさせる
- ⑤「振り返る」 自分の学びを振り返られるよう、意図的、継続的に取り組む

1 時間の流れがわかるものを黒板に示し、子どもに見通しをもたせる



子どもが  
安心



子ども主体の授業

2、つながりタイムのスキルを習慣化する。

3、既習の漢字を使うように、必ず声をかけ、漢字の定着を図る。